

授業改善推進プラン

生活・音楽・体育・図工・家庭科については、各教科、以下のように取り組む。

【生活科における令和元年度授業改善推進プランの検証(課題)】

- ◇交友関係が狭く、自分や身近な人々、社会及び自然との関わりについて考える機会が少ない。
- ◇昨年度末からの感染症拡大の影響で、もの・人・地域との関わりについての活動は非常に少なくなっており、考えを深める機会も減ってきている。
- ◇生き物との関わりが少ない。

【生活科の授業改善策】

(1年生)

- 具体的な体験活動を通して、自分と身近な人々との関わりに関心をもたせ、自分の生活を支えている人への感謝の気持ちをもって生活することができるように指導する。
- 校内で見つけたバッタやかたつむり、ダンゴムシなどの生き物を、教室でお世話したり、観察をしたりすることにより、生命を大切にしようとする態度を育てる。

(2年生)

- 本年度は、コロナの影響で、活動することができないことも多い中、ICT等を活用して、学校案内の動画を作成し、兄弟学級と交流を深める場を設ける。
- 児童の興味関心を大切に活動を展開しながら、もの・人・地域との関わりを深める活動を継続していき、生き物等との触れ合いや考えを伝え合う活動の場を増やしていく。
- 3年生の理科・社会科につながる見方や考え方を指導していく。

生活科

【音楽科における令和元年度授業改善推進プランの検証(課題)】

- ◇歌を歌う時に、きれいな響きを意識して歌うことが難しい。
- ◇鍵盤ハーモニカを演奏する際に、タンギングや正しい指遣いをするのが難しい児童がいる。
- ◇リコーダーの技能面の習得が、年々難しくなっている。指使いとともに息の調節に課題が残る。
- ◇鑑賞では、聴き取ったこと感じたことを言葉に表現することに苦手意識をもっている児童が多い。
- ◇美しい響きについての意識はあるが、豊かな声量で生き生きと歌唱するには時間がかかる。

【音楽科の授業改善策】

(低学年)

- 友達の声聴いて、きれいな響きの歌い方に気付くことができる場面を設定した歌唱学習を行う。
- 具体的な演奏方法を教えながら反復練習をさせることで、鍵盤ハーモニカの演奏技能を伸ばしていく。
- 子どもの興味のある曲を選曲した指導が、児童の意欲を引き出し、苦手意識をなくすことに有効であったので、継続して行う。

(中学年)

- 基礎的な学習を徹底しながら楽しく歌唱し、更にレパートリーを増やしていくよう指導する。
- 楽譜に親しむことができるように、リズム唱や階名唱を通して音高感をつかませる。
- リコーダーの学習では、基礎の段階の指導を徹底する。
- 鑑賞の学習では、聴いて感じた自分の思いを容易に表現するための手立てを工夫する。

(高学年)

- リコーダーの学習指導では、美しい音色に向けて、息の強さ・細さ、タンギング、指使いを合わせてタイミングよく操作できるように、短い練習時間を積み重ねていく。
- 豊かな声量で歌うためのロングトーンの発声練習は、児童の取り組みがよく有効であったので、引き続き行っていく。
- 声を響かせるための技術的な指導と同時に、歌詞の内容や曲想を取り上げて指導し、自分なりに思いをもつことにより豊かな声量で生き生きと歌唱できるように指導する。

【体育科における令和元年度授業改善推進プランの検証(課題)】

- ◇本校の児童は、これまでの体カテストの結果からどの学年も持久力に課題が見られた。原因は、狭小な校庭に千人を越す児童が在籍しているため、休み時間に思う存分走れないという物理的な環境もあると思われる。それに加え、昨年度末からの感染症拡大の影響で、自宅で過ごす時間が増え、十分に体を動かす機会も減り、体力の低下が見られる。体育の時間に、持久走の時間を増やすなど、走る運動の時間を確保していく必要がある。
- ◇遊びや運動経験の差が激しいため、運動技能に差が生まれている。

【体育科の授業改善策】

(低学年)

- 課題、規則、場や用具などを簡易化した運動遊びを取り入れ、児童が成功経験を得やすいようにすることで、基本的な体の動きを身に付けさせる。
- 学校生活の中で、たくさんの遊びを経験させ、児童が体を動かす楽しさを味わえるようにする。
- 投げたり、跳んだり、全力で走ったりする運動を体育学習の中に意図的に取り入れる。
- 3分間完走や縄跳びなど、運動量の多い活動を取り入れ、基礎体力を向上させる。

(中学年)

- 新学習指導要領に示されている「運動が苦手な児童への配慮の例」を授業に取り入れ、運動嫌いの児童を生まないように支援していく。
- ワークシートなどを使い、自分のできるようになったものがわかるように記録に残す。
- 運動を力いっぱい行うことによって運動の楽しさを味わわせるとともに、仲良く活動したり、勝敗を受け入れたりする心地よさを味わわせる。
- ストレッチを取り入れたり、体を支える運動や逆さになる運動を取り入れたりして各種運動の基本的な動きを身に付けさせる。
- 動き・技能の技の名前を意識させながら習得させ、技を完成させる意欲を高めさせる。
- 後転が苦手で、恐怖感を感じている児童が多い。ゆりかごなどの体を揺らす運動遊びや、かえるの逆立ちなどの体を支える運動遊びに取り組んだり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりして、腰を上げたり、体を支えたり、回転の勢いをつけたりする動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- 自分の動きをメタ認知するために、ペアでタブレット録画をし合ってアドバイスし合う活動を多く取り入れ、体の使い方を学ばせる。
- カードを利用してめあてや技能ポイント、動きの工夫などを明確に捉えさせる。
- 短縄では、動画教材を見て正しい跳び方について学ばせる。

(高学年)

- ワークシートなどを活用して自分の体力や運動能力を理解して、自分の技能をより向上させる。そのために、各種目の技能ポイントを児童に紹介したり、気付かせたりする。
- 今までの運動体験を生かし、運動の楽しさを大切にしながら運動の特性に応じた技能を身に付けさせる。
- 運動の技能向上を計れるように指導する。そのために、段階的に指導したり、簡易化したルールで運動に取り組ませたりして、児童に「できた！」という達成感をもたせるようにする。
- 時間を決めて短縄や持久走に取り組み、基礎体力を向上させていく。
- 運動のポイントを動画で視聴する、児童の運動を動画で振り返るなど、ICTを活用して指導する。

【図工科における令和元年度授業改善推進プランの検証(課題)】

- ◇作品づくりへの姿勢や進め方に差が見られる。
- ◇想像力を働かせて工夫することが難しい児童がいる。
- ◇生活経験などの差による技能の差が見られる。
- ◇友達の作品を深く鑑賞し、感じ取ったことを言葉で表すことが難しい児童がいる。

【図工科の授業改善策】

(低学年)

- 作品を見せ合い、作品のよさや面白さについて話す時間を十分に確保する。
- さまざまな材料や素材にふれることで、幅広い表現活動の土台を培えるよう指導する。
- 水の量を調整しながら塗り分けられるようにするために、絵の具の塗り方を繰り返し指導する。

(中学年)

- 様々な材料や道具を使い、それぞれの特徴を知ることのできる活動を行う。表現の幅を広げ、児童が進んで試行錯誤して作品づくりができるように指導していく。
- 自由に想像したことを作品に表していく楽しさを、作品作りや鑑賞を通して経験させ、造形活動の意欲につなげる。
- 作品の展示・掲示の環境づくりをし、児童が互いの作品の工夫に触れる機会を確保する。
- 思い思いの表現活動を尊重しつつも、画面の構成や構図の面白さを追求できる発想力や技能を育むような指導をしていく。

(高学年)

- 活動の流れを視覚化し、見通しを持った制作ができるようにする。作品の構想に生かせるよう、制作途中で互いの作品を鑑賞する学びの時間を設ける。
- のこぎりなどの工具、電動糸鋸や彫刻刀やカッターなど系統立てた工具の指導を行い、中学校美術・技術へつながる基本的な技術を身に付けさせる。
- 題材ごとに鑑賞の形式を変え、感じ取るべきポイントと自由に感じ取ったことを分けた鑑賞シートを使用する。思いが伝わるような言葉の表現方法を指導する。

【家庭科における令和元年度授業改善推進プランの検証(課題)】

- ◇調理や裁縫に関わる生活経験が個々で差があり、基本的な技能の習得が必要である。
- ◇実習において上手いできない児童が、自信ややる気を失い、学習に消極的になる場合がある。

【家庭科の授業改善策】

(5年生)

- 裁縫は未経験の児童が多く技能の個人差が大きい。1つ1つの作業を細分化したり、ICT を活用して立体的に把握できるようにしたりすることで、基礎基本を定着させる。児童がお互いに学び合い認め合いながら、個人の学習意欲を育めるよう個別指導を中心とした学習指導を工夫する。

(6年生)

- 食物や調理実習への興味・関心は高いが技能の個人差が大きい。グループ活動の場合は役割分担等による活動量にも差がでる。そこで、動画で作業全体の流れを把握したり、作業の手順をプリント等でチェックをしたりする。そして問題解決学習を重視し、生活の様々な場面において学習したことを生かしながら、適切に判断する力が身に付くよう支援する。

(5・6年生)

- 学習を応用発展したりすることができる力が育つように、学習したことを家庭生活の中で活用するように促す。
- 言語活動や ICT を取り入れながら、生活の中で体験したことや調べたことをまとめ、発表し合う活動を通して、思考力・表現力を育成する。
- 裁縫や調理、その他の実習などを体験させることで、自己肯定感や自己有用感を高めたり協力する気持ちをもったりすることができるようにする。
- 実習などでは、結果よりも過程に目を向け、児童の頑張る姿を称賛するようにする。